

野村忠央 (2024) 『英語史ノート』 (DTP 出版) 正誤表

- ・ p. 9 (1)2 段落目 1.8 どんな言語学者で→どんな言語学者でも
- ・ p. 10 (3)の下※ 非文(grammatical sentence)→非文(ungrammatical sentence)
- ・ p. 10 3.3. (1.)の次の行 ※第 3 回に→※第 4 回に
- ・ p. 11 ※1 新高ドイツ語→初期新高ドイツ語
- ・ p. 11 ※1 現代ドイツ語→新高ドイツ語(現代ドイツ語)
- ・ p. 12 (問題 2)の最後の単語 tiple→triple
- ・ p. 14 5.2. 中英語(Middle English: OE)→5.2. 中英語(Middle English: ME)
- ・ p. 14 5.3. 近代英語(Modern English: OE)→5.3. 近代英語(Modern English: ModE)
- ・ p. 15 l. 11 ニュージランド英語→ニュージランド英語
- ・ p. 17 「ヴァイキング襲来」の 878 年 デーンジン→デーン人
- ・ p. 29 (1) You go to school by.→You go to school by (ピリオドトル)
- ・ p. 32 l. 9 sied→seid
- ・ p. 33 l. 12 鴫崎 (2021: 133)→鴫崎 (2019: 133)
- ・ p. 33 (2)の l. 4 『ハムレット』 (*Hamlet*, →『ハムレット』 (*Hamlet*, (t の後のスペースツメ)
- ・ p. 35 (3c) 間接目的語(direct object)→間接目的語(indirect object)
- ・ p. 35 (3d) 直接目的語(indirect object)→直接目的語(direct object)
- ・ p. 36 (10) テキスト的(textual)→テキスト的(textual)
- ・ p. 43 下から l. 2(l. 49) I take thee at thy word.→下から l. 4(l. 48)の Take all myself.の後に文頭の I が来るように文全体を下ゲル(右に移動)
- ・ p. 48 (7), p. 53 (3), p. 58 (21a) 本発表→本章
- ・ p. 53 (3) 本連続シンポジウムの趣旨→「学問的知見を英語教育に活かす」という趣旨
- ・ p. 55 下から l. 7 Confusion to.→confusion to (ピリオドトル)
- ・ p. 63 「英語史の視聴覚教材」の l. 5 上記 2 つの DVD の日本語訳→上記 2 つの DVD が書籍化されたもの
- ・ p. 66 下から l. 2 鴫崎敏彦 (2020)「大母音推移一つづり字と発音の不一致の主要因—」渋谷他編 (2019)84-85.→鴫崎敏彦 (2020)「大母音推移一つづり字と発音の不一致の主要因—」渋谷他編 (2020)84-85.

以 上